

Report from the EDGE

ディスレクシア (Dyslexia) とは……………

知的に問題がなく、聴覚、視覚の知覚的機能は正常なのに、読み書きに関して特徴のあるつまずきや学習の困難を示す症状のことをいいます。

EDGE は……………

ディスレクシアの正しい認識の普及と教育的な支援を目的とした特定非営利活動法人 (NPO) として、2001年10月に認証・設立され、活動しています。

パーソナルストーリー ……………

画家マッケンジー・ソープの魅力

～この人のために生きたい～

文：ギャラリー江夏 江夏大樹 (えなつひろき)

写真：2006年ホテルオークラ東京における来日展にて

のっけからのサブタイトル「この人のために生きたい」という言葉に、「江夏さん相当ソープさんに惚れ込んでいるのね～」と驚かれる方もいらっしゃるかもしれませんが、これは私の言葉ではなく、マッケンジー・ソープが【暮らしと健康 (保健同人社)】という雑誌の2007年3月号インタビューにおいて語った言葉です。

(文章一部抜粋)

「よく日本では『この人のためなら死ぬる』といいますが、妻は『この人のために生きたい』と思える唯一の女性です。」

妻とはマッケンジーが苦しい時代からずっとサポートし続けてきた

スーザンさんのこと。私はインタビューの中にあるこの言葉が大好きですね。武士道的な日本の死生観から転じた素晴らしい価値観ではないでしょうか。よく世間でみる依存的な「この人のため」ではなく、純粹なものを感じます。

誰もが異なる人生の課題を抱えています。その個々人に与えられた課題をどう受け入れ、生きるかによってその人の人生は大きく変化をします。マッケンジー・ソープの魅力は多くの逆境を乗り越えてきた人間の強さと優しさを持ち合わせていることであり、多くの作品からそのメッセージが伝わります。

もし彼が自分に降りかかる多くの困難にずっと不平不満を言葉にしな



がら生きていたらどうだったでしょう？ 周囲から避けられて、自分の力を発揮する機会もなく、きっと彼の人生はつまらないものになっていたでしょう。そうではなく、彼は自分が大好きであり、得意とするところの「描く」ということに集中しエネルギーを注ぎ込みました。

彼は日本でのスピーチの後、よく「ドモ、アリガトウゴザイマス」と締めますが、会場でもこの言葉を

ご支援ありがとうございました。

- NHK 厚生事業団 ノートパソコン 3 台 寄付
(DX会キッズ&ティーズでタッチタイプ、Daisyに使用)
- 第 39 回博報賞 (特別支援教育部門) を受賞
- VIFOR 寄付
(テキスト作成、11/16 シンポジウム→ P6)
- アサヒワンビールクラブ 寄付

特集：ディスレクシアと取り組む

- P4 愛をはこぶ人キャンペーンについて / シンガポール DX 協会訪問
- P5 DX MONTH IN JAPAN - NOVEMBER 2008 (ディスレクシアに関連するイベントの一覧)
- P6 愛をはこぶ人主催シンポジウム / 明石講演
- P7 DAISY イベント / ソフト紹介 / IBM フォーラム
- P8 LD 学会 / 第 19 回 DX 会

よく耳にします。不平不満にエネルギーを注ぐのではなく、描くことにエネルギーを注ぎ、この感謝の気持ちを持ち続けたことが今の彼を導き、これまでの周りのサポートの多くを引き寄せたのだと思います。そして何よりも、「夢を持ち続けたこと」が今の現実を創り出しています。人生の陰と陽の大きなブレを経験したからこそ湧き出る、人生のあらゆる側面を描いた彼の人生賛歌は、い

ま世界各国で多くの感動を呼んでいます。

もっと彼のことを書きたいですが、これからのイベントの宣伝も少しさせて下さい。

今年の11月にいよいよ念願であった、日本初となる「マッケンジーの大きな彫刻を子どもたちと一緒にペイントする」ワークショップを開催できます。学研さんのご協力により、五反田に完成した新社屋と

いう素晴らしい舞台での開催です。完成した作品はそちらに設置される予定です。また、マッケンジー・ソーブ絵画展の情報も今後弊社のホームページ (www.ge-art.com) や愛をはこぶ人キャンペーンのホームページ (www.aiwohakobu.jp) でアップ致しますので、ぜひ御覧いただき足をお運びいただくと嬉しく思います。どうもありがとうございます。

NPO法人らんふあんぷらざのご紹介

事務局 篠田文彦

らんふあんぷらざの前身「LD 懇話会かながわ」は、92年4月からLDおよびその周辺の問題を持つ子どもたちに接する教育、医療、福祉に携わる専門家の連携の場として、勉強会や県内の啓発活動を行ってきました。04年4月より実際に子どもたちの指導ができる場を設け、拡大運営をしたのが「NPO 法人らんふあんぷらざ」です。

らんふあんぷらざとは、フランス語で「子ども広場」を意味し、軽度発達障害の子どもたちが、楽しみながら学べる場、子どもも大人もホッとする場、保育園、幼稚園、学校との連携の場を目指しています。

らんふあんぷらざは、健常児と見分けがつきにくいことから疎外されやすい軽度発達障害児について、教育、医療、福祉関係者が協力して、児童やその保護者に対する支援を行い、結果として、健常児やその他の障害を含め、当該児童の地域における健全育成、自立に寄与することを目的としています。

らんふあんぷらざの特色は、医師による診断の後、スタッフによる検査や面談を行い、児童の特性に合っ

た指導内容を決めることです。今年度は、約120名の児童が指導を受けています。指導内容も様々で、中学生以上には、英語やPCを用いた指導も行われ、音楽や造形を通じたソーシャルスキルトレーニングも人気が高い指導です。

もう一つの特色は、専門家による心理評価、言語評価の実施とカウンセリングです。言語聴覚士によるディスレクシアの評価／個別指導や読み書きに必要な視機能検査と訓練も行います。書字の個別指導も3年目に入りました。

2年前から、専門講師によるペア

レント・トレーニングが始まりました。父親参加日を設定し、ご夫婦で子どもに接する指導を受けています。

'07年から軽度発達障害を一般の方々に理解して貰う為のセミナーを実施しています。教育関係者、軽度発達障害児を持つ保護者のみならず、多くの参加者と講師との熱心な討議は圧巻です。

(編注) *文部科学省では軽度発達障害という言葉を使いません。知的に遅れないことと困難さが軽いことは一致しないため、現実にはそぐわないからです。



学習支援員のテキスト販売

エッジが港区と協働で行っている学習支援員の養成講座の内容をテキストにまとめました。

『能力を引き出し伸ばす支援』Vol.1～3

○Vol.1「理解を深める」

- 1-1 港区の特別支援教育
- 1-2 特別支援教育とは
- 1-3 発達障害を理解する
- 1-4 気づきの目を持つために
- 1-5 LD 疑似体験
- 1-6 当事者(保護者、本人)の声

○Vol.2「特別支援教育の現状」

- 2-1 カウンセリング
- 2-2 ソーシャルスキルトレーニング
- 2-3 医療面からの配慮
- 2-4 教育の現場～就学前～
- 2-5 教育の現場～小中学～
- 2-6 教育の現場～都立高校～
- 2-7 高等教育と就労

○Vol.3「実践」

- 3-1 LSA の役割、出来ること
- 3-2 支援ツールの紹介
- 3-3 実践的指導法
国語・算数・英語・その他
- 3-4 その他の支援のヒント

B5 版/各 1,470 円(税込)

○《報告書》

文部科学省委託事業

「障害のある子どもへの対応における NPO 等を活用した実践研究事業 中間報告」

～個別支援室と学習支援員の仕組みと効果～

1,000 円(税込)

○《発表会 DVD》

アンケート・インタビュー結果をまとめた支援効果に関する調査報告
支援の実際と事例研究
支援体制をより効果的に変えていくための考察と展望

2,500 円(税込)

○《報告書と発表会 DVD のセット》

3,000 円(税込、セット割引)

ご注文は NPO EDGE 事務局まで

FAX : 03-6240-0671

Mail : info@npo-edge.jp

愛をはこぶ人キャンペーンから

「愛をはこぶ人キャンペーン」では、11月16日(日)にシンポジウムを開催いたします。このシンポジウムは私たちの目標である「ほんの小さなきっかけで、子どもたちに大きな未来を」を実現するための活動の到達点でもあり、次のステップへの出発点でもあります。シンポジウムには今が旬のベストセラー作家であり、映画「いま、会いにゆきます」の原作者でもある市川拓司氏が参加され、LD教育のパイオニアでもあり、キャンペーンの実行委員長の上野一彦教授と対談します。若者たちも参加します。また、わたしたちの活動を設立当初から支えてくれた世界的な画家であるマッケンジー・ソープ氏が来日し、自らの「きっかけ」を語ります。恒例の絵画展はホテルオークラ東京

で、11月15日(土)～24日(月)の期間、開催され、日本LD学会の年次大会が開かれる広島大学メインホールでも11月22日(土)～23日(日)の期間で開催予定です。両会場共に、22日(土)にソープ氏が来場の予定です。2008秋の愛をはこぶ人キャンペーンの活動に、どうぞご期待ください! キャンペーンオリジナルのソープ氏の素敵な作品を集め

た2009年版カレンダー(一部1400円・税込、送料600円)とポストカード(10枚セット1000円・税込)も好評販売中です!

お申し込みは

Mail: mail@aiwohakobu.jp

FAX 03-6240-0671

*広島会場ではこの5年間ソープ氏と子どもたちとのワークショップで描いてきた絵が展示されます。



愛をはこぶ人キャンペーンについて

東京学芸大学教授 実行委員長 上野一彦

今年もまた「愛をはこぶ人キャンペーン」の季節がやってまいりました。私がこのキャンペーンに参加するようになって4年目です。小さな一人ひとりの力を結集して、子ども達の明日をすこしでも豊かにという、皆さんの熱い思い、理解の輪が確実に広がってきております。

今年は、五反田に学研の新社屋が完成しますが、その会場をお借りし、マッケンジー・ソープさんによる子ども達とのワークショップやシンポジウムなど、いろいろな企画を皆さんと考えてきました。

私たちの夢の一端をお話したいと思います。

2007年度から、教育界では特殊教育から特別支援教育へ大きな転換が図られてきています。障害による場を決めての支援教育から、たくさん子どもたちの支援ニーズに応える教育への転換です。私たちの周りにはたくさん線の引き、区別があります。障害—非障害、健康—病気……、実はそれらの状態は連続して

います。私たちが理解し、対応するために、便宜的にそうした区分をしているのです。大切なのは、一人ひとりの子どもたち、人たちがどんな状態にあり、何を求めているかをお互いに知ることなのです。

このキャンペーンのきっかけとなっているLD (Learning Disabilities : 学習障害) も、学び方のちがい (Learning Differences) という捉え方もいいのではないかという声があがってきています。一人ひとりの子どもたち、人たちが個性的な存在だとすれば、それぞれの学び方、在り方をもっと大切にしていこうという考え方です。

愛を運ぶというのは、お互いを認め合っていくことに他なりません。それこそ、愛 (Love) と夢 (Dream)、つまりはLDなんですね。昨年、私自身もLDやADHD的な特徴があるというエッセイ集「LD教授 (パパ) の贈り物」(講談社)を出しましたが、たくさんの方々から、私もそうなんですという、お便りをいた

だきました。

この「愛を運ぶキャンペーン」を通して、私はたくさん愛と夢を、たくさん周りの子どもたち、人たち、そして、私たち自身に、届け、満たしていきたいと思います。みなさんとそうした働きに参加できることに限りない喜びを実感しています。

上野一彦 (Kazuhiko UENO)
国立大学法人東京学芸大学
心理学講座

<http://edublog.jp/kaz1229>

tel & fax : 042-329-7360

e-mail : ueno@u-gakugei.ac.jp



シンガポールDX協会訪問記

柴田章弘

2008年7月9日、シンガポールディスレクシア協会を訪問した。近代的な大きなビルのワンフロアーに事務所と教室がある。まず、玄関の大きな看板を見ただけで、驚いてしまった。ホテルのフロントを思わせる受付があり、名刺を渡して受付を通るだけでも勇気が必要だった。リー部長が準備して待っていた。お話によると、DAS (Dyslexia Association of Singapore) はスタッフの数100人、生徒数1000人で、シンガポールディスレクシア協会は4つの活動を主にしていた。

①啓発②相談③ディスレクシアの生徒に対する特別授業④親、教師、他の専門家に対する訓練である。特に③のディスレクシアの生徒に対する特別授業が充実していて、生徒一人ひとりに合わせた授業を行っている。残念ながら、成人ディスレクシアの講座はなかった。部長にお尋ねすると、将来は考えたいとのお返答だった。帰国後、手渡された2枚のCDを見て、感動してしまった。ディスレクシアの定義から、支援の仕方、有意義に該当生徒の才能を活かす方法が細かく解説してある。英語解説

で、日本人には少し難しいかもしれないが、映像で大筋を理解できる。将来はNPO法人エッジのスタッフを使って、このような啓発CDが作れば、もっとディスレクシアの理解が広がるに違いない。今回の訪問で勇気と希望を与えてもらった。



2008年秋 イベントご案内

愛をはこぶ人キャンペーン主催イベント

マッケンジー・ソープ絵画展

期 間：11月15日(土)～11月24日(月)
場 所：ホテルオークラ東京別館1Fロビー
参加費：無料
啓発ブース

ソープ氏のトークショー

日 時：2008年11月22日(土) 16:00～17:00
ソープ氏が絵画展会場に来館、サイン会、トーク
ショーを開催
参加費：無料

シンポジウム「ほんの小さなきっかけで、 子どもたちに大きな未来を」*

日 時：2008年11月16日(日) 10:30～16:00
(受付9:30から)

場 所：学習研究社新本社3階ホール
参加者：300人
参加費：無料(要事前申込)

(1)Dr. Portwood - Sponsor Lecture

(2)品川・港区の特別支援教育のセミナー

通常学級内における支援について講師：日本LD学会
会長、東京学芸大学教授・上野一彦氏、杉並区中瀬
中学校通級指導教諭・月森久江氏、品川区教育委員
会指導課指導主事・大倉滋之氏、港区個別支援室室
長、NPO法人EDGE会長・藤堂栄子氏

(3)マッケンジー・ソープ氏講演

(4)市川拓司氏と上野一彦氏の座談会と若者たちの声
協 力：学習研究社

「ソープ氏と子どもたちの絵画展」

期 間：2008年11月22日(土)～23日(日)
場 所：日本LD学会広島大会 広島大学メインホール
参加費：無料
啓発ブース
協 力：ギャラリー江夏、ホルプ

「ソープ氏と子どもたちのワークショップ/ ソープ氏のトーク」

月 日：2008年11月22日(土)
時 間：ワークショップ 10:00～10:30
トーク 11:00～11:30
<http://www.soc.nii.ac.jp/jald/activity1.html>

以上のイベントの後援：

日本LD学会、JDDnet、日本小児科医会

※はさらに東京都教育委員会、港区教育委員会、品川
区教育委員会

スポンサー協力：Vifor Pharma

愛をはこぶ人キャンペーン主催イベントの申込はイ
ベント名、氏名、住所、連絡先（ファックスまたは
e-mail）を記入の上
Fax. 03-6240-0671
E-mail : mail@aiwohakobu.jpまで

以下のイベントに協力、参加、啓発ブースを出します

「ディスレクシアの子どもたちへの読み の支援 -DAISYを使ってみよう-」

日 時：2008年11月1日(土)
10:00～17:00
場 所：大崎ゲートシティホール
参加費：無料(事前申込)
参加者：400名
主 催：(財)日本障害者リハビリテーション
協会
協 力：NPO法人エッジ・(社)日本国際児童
図書評議会・ゲートシティ大崎・
ギャラリー江夏
助 成：独立行政法人福祉医療機構「長寿・
子育て・障害者基金」
後 援：日本LD学会
申込先：Tel. 03-5273-0796
Fax. 03-5273-0615
e-mail : dinf-j@dinf.ne.jp
URL : [http://www.normanet.ne.jp/info/
semnar081101.html](http://www.normanet.ne.jp/info/semnar081101.html)

IBMアクセシビリティ・フォーラム 「リテラシーとIT」

IBMが開発しているプログラムを使用して、
ディスレクシア及び聴覚障害者への支援を
考える。
日 時：2008年11月14日(金)
10:00～17:00
場 所：日本IBM箱崎事業所
主 催：日本IBM
協 力：NPO法人エッジ
参加費：無料
参加者：200名
講 師：柴田、藤堂、村松
申込先：Tel. 046-215-5742
e-mail : bmac@jp.ibm.com
<http://www.ibm.com/jp/accessibility/>

六本木ヒルズ・ミニ絵画展

期 間：2008年11月下旬から12月下旬
場 所：六本木ヒルズ森タワー 49階
アカデミーヒルズ
ライブラリートーク
日時：12月2日(火)
アカデミーヒルズ 六本木ライブラリー
「ライブラリートーク」
「ソープ氏とディスレクシア」
講師：藤堂栄子

JDDNet (日本発達障害ネットワーク) 年次大会

日 時：2008年12月13日(土)～14日(日)
場 所：目白大学
<http://jddnet.jp/index.php>
e-mail : office@jddnet.jp

エッジの協力イベントの問合せ先 NPO法人エッジ Fax. 03-6240-0671 e-mail : info@npo-edge.jp

愛をはこぶ人キャンペーン主催シンポジウム2008 ～ほんの小さなきっかけで、子どもたちに大きな未来を～

株式会社 学習研究社 吉岡 史雄

弊社は、長年にわたって障害児教育図書・教材の出版を手掛けてまいりました。平成18年からは、特別支援教育のスタートに先駆け、東京学芸大学教授 上野一彦先生をはじめとする多くの先生方の指導を仰ぎながら、発達障害のあるお子さんの学習支援に繋がる最新のアセスメントや指導プログラム・教材の研究に取り組んできました。また、本年9月には、品川区中延に「学習指導教室」を新たに開設し、今後も教室での指導を希望される多くの方々の期待に応えて行きたいと考えております。これらの取り組みがきっかけとなって、「愛をはこぶ人キャンペーン」の活動と出会い、微力ながら応援させていただいております。本年度につきましては、このほど品川区西五反田に完成した学研本社ビル3階の大ホールを、「愛をはこぶ人キャンペーン主催シンポジウム2008」の会場として提供させていただきます運びとなりました。11月16日(日)開催の「愛をはこぶ人キャンペーン主催シンポジウム2008」では、「ほんの小さなきっかけで、子どもたちに大きな未来を」をテーマに、盛り沢山の内容が予定されています。午前の部では、「港区、品川区の特別支援教育のセミナー」と題して、通常学級内の発達障害児への支援の一環として港区、品川区で行われている「特別支援教育支援員の制度」の現状と課題について、NPO法人エッジの藤堂代表をはじめ、関係者各位による講演が予定されています。午後には、「愛をはこぶ人キャンペーン」で来日中の世界的な画家マッケンジー・ソープ氏の講演会や、ベストセラー小説「いま、会いにゆきます」で有名な作家の市川拓司氏と愛をはこぶ人キャンペーン実行委員長の上

野一彦教授との対談のほか、ディスレクシア当事者が語る座談会などが企画されています。

今回の「愛をはこぶ人キャンペーン主催シンポジウム2008」は、弊社新本社ビルで開かれる初のイベントでもあります。このセミナーがきっかけとなり、愛をはこぶ人の輪がますます広がることを願っております。皆様のご来場をお待ちしております。

野一彦教授との対談のほか、ディスレクシア当事者が語る座談会などが企画されています。

今回の「愛をはこぶ人キャンペーン主催シンポジウム2008」は、弊社新本社ビルで開かれる初のイベントでもあります。このセミナーがきっかけとなり、愛をはこぶ人の輪がますます広がることを願っております。皆様のご来場をお待ちしております。



2008年5月に竣工した学研新本社ビル
(東京都品川区西五反田)

明石 講演

9月14日と15日に明石のNPO法人市民サポートセンター明石の招きで講演をしてきました。延べ100名以上の参加がありました。明石におけるディスレクシアや発達障害への理解と対応が進むための一助となりましたら幸いです。

1) 港区の特別支援教育について

港区における教育委員会との協働も3年目に入りました。学習支援員の育成、派遣や個別支援室における取り組みを通して、

NPOとしてできることを検討しました。

2) 早期発見、早期対応

早期発見の意義、気づいた後の対応などについて検討しました。

3) 英国における対応

藤堂高直 15歳で英国に渡り、ディスレクシアと診断されてから受けた支援の説明をしました。数々の支援のおかげで25歳になった今、建築の専門学校のディ

藤堂 栄子

プロマコースを修了し、パリでの就職が決まりました。

4) LD疑似体験

LDを持つ子どもたちが学校でどのような気分でののかを、ストレスを感じる状況下で読みや書きの困難さを体験してもらいました。そのような対応がいいのかの答えを参加者に出してもらおうワークショップです。参加者からは「目から鱗が100枚も落ちた」と評判でした。

DAISY イベント

11月1日にゲートシティ大崎にて、ディスレクシアとDAISYについて理解を深めてもらうためのイベントを開催いたします。

講演会では、ディスレクシアについて親、当事者、教育者など様々な立場の方にお話いただきます。また、事前にディスレクシアの子どもたちにDAISYの素材となる絵とストーリーを作ってもらいワークショップを行います。その様子を撮影したビデオを上映い

申込・問合せ：

(財)日本障害者リハビリテーション協会 情報センター内
TEL：03-5273-0796 FAX：03-5273-0615 e-mail：dinf-j@dinf.ne.jp
URL：http://www.normanet.ne.jp/info/seminar081101.html
担当：有田・太田・吉広・野村

たします。さらに、DAISYの有効性に関する事例発表を行い、最後にDAISY図書はどうしたら当事者の手に届くのかについて意見交換を行います。各講演の時間、意見交換の時間をたっぷり取り、DAISYを活用したディスレクシアの支援に明るい展望を見出せるような時間にしたいと思います。

DAISY体験ワークショップのビデオと作品展示コーナー、DAISY体験・相談コーナー、機

器展示、マッケンジー・ソープ氏絵画展を同時開催いたします。絵を楽しんでいただいたり、DAISY図書や教科書を見ていただいたり、質問や相談を受けたりする場です。

これからディスレクシアやDAISYを知りたい人にもすでに知っている人にも来てよかったと思っただけのイベントにいたします。ぜひお越しください。



声の職人について

音声合成ソフトの(株)イーアイ(www.ai-j.jp)です。ディスレクシアの方にとり、文章を声で読み上げることは非常に有益であると伺っています。当社は、テキストデータを音声化する音声合成ソフトの専業会社であり、人の声をデータベース化して文書を読めるソフトウエアエンジン(AITalk)を研究開発し、音声データ作成ソフト「声の職人」の提供をしております。皆様方の中にも、本を音声化するのに苦労されている方、子供の学習用に本を読み録音して

いる方も多いのではないのでしょうか。音声合成はそんな皆様のお役に立てる技術であり、「声の職人」は任意の文書を音声合成し、微妙なフレーズ調整やスピード調整、音声ファイル作成の役割もこなせるソフトです。当社は、これまで企業向けに製品出荷をしましりました。これからも様々なサービス・商品が色々な人の声で話してくれる世界を実現させたいと考えており、皆様からのサービス/商品のアイデアも広く求めています。EDGEの方に「声の職人」を

試用して頂き好評です。ディスレクシアの方々に使いやすい工夫も取り入れたいと考えており、団体様モニターを募集しておりますので応募下さい。

連絡先：info@ai-j.jp
03-5969-8922(山田)



アクセシビリティ・フォーラム2008のご案内

日本アイ・ビー・エム(株)では、2008年11月14日(金)に「教育におけるアクセシビリティ」をテーマに「アクセシビリティ・フォーラム2008」を箱崎事業所にて開催いたします。

社会の情報化が急速に進む中、教育現場においても情報技術の積極的な活用が始まっています。と

りわけインターネットは情報の収集と発信の場として、あるいは学生同士や学生と教師とのコミュニケーションの場としてすでに広く利用されています。しかしながら、この技術変革が、障害を持つ全ての学生に恩恵をもたらしているかというと、必ずしもそうではありません。本フォーラムでは、技術

変革によってむしろ不利益を被る可能性のある聴覚障害学生と、発達障害者支援法の施行や脳科学の進展により関心が高まる学習障害に焦点をあて、今後の取り組むべき課題と役割について、幾つかの事例なども見ながら、参加者の皆様と考えていきたいと思ひます。

皆様の積極的なご参加をお待ち致しております。お申し込みは下記ホームページよりお願いいたします。

http://www.ibm.com/jp/accessibility/

飯塚 慎二

日本LD学会広島大会のお知らせ

広島大学教授 大会会長 落合 俊 郎

LD学会が11月22日から24日まで、広島大学東広島キャンパスで開催されます。テーマは「クリニックからクラスルームへ」です。今、特別支援教育に新しい要因が入ろうとしています。それは「国連 障害のある人々の権利条約」の影響です。憲法の下に来るほどの強い権限をもつ条約です。教育分野ではインクルーシブ教育が大きな課題でしょう。インク

ルージョンとは何か、それを具体化するためにはどうすればよいかを議論します。

外国招聘講師としてピーター・エバンズ(OECD)氏には世界のインクルージョンの状況を、アメリカ合衆国のダグラス・ビクリン(シラキュース大学)氏にはアメリカのインクルージョンの歴史と課題を、ニュージーランドのデビット・ミッチェル氏にはその手

法について講演を頂きます。多分、国際学会が開催されても、この3人は招聘講師でしょう。日本LD学会会長 上野一彦氏と日本教育学会会長の佐藤学氏とのシンポジウムも見ものです。

11月22日にはマッケンジー・ソープさんが講演とワークショップを行います。発表論文集の表紙もソープさんの絵です。酒都西条(東広島)にどうぞおいで下さい。

第19回DX会報告

柴田章弘

8月9日(土)、第19回DX会は16人(男7名、女9名)の出席で、地域活動室で行われました。2つの設問も用意して、それに文字を書いたり、絵を描き、アイデアを出して行きました。第1問は「北京オリンピックもしくは、中国から浮かぶイメージ」を話しながら自己紹介をしました。オリンピック関連以外には、『チベット問

題』、『毒入り餃子』、『大気汚染』などの話題が出てきました。イメージした事項を説明しながら、自己紹介すると予想以上に話ができるものです。第二問は「オリンピックでどんな競技を見に行き、帰りに何を食べるか」を二つのグループに分け話し合いました。文字にこだわるのではなく、自分の思いを絵にしてみると、どうなるで

しょうか。参加者は急に活気づきました。最後の発表では二面のホワイトボード一杯に観戦競技と食べ物絵が並びました。これを見ると文字や話と異なった力強さを感じました。ワークショップの終了時には参加者の顔が子どものように無邪気になりました。DX会は躍進の4年目を迎えました。

最近の活動紹介

- 7月14日 キャンペーン例会(11人)
- 7月24日 宮崎市議、個別支援室訪問
- 8月1日 NHKインタビュー
- 8月8日 効果測定ミーティング
- 8月9日 第19回DX会(16人)
- 8月11日 発達障害教育情報センターヒアリングに参加
- 8月22日 千葉県教職員研修にて講演(150人)
- 8月27日 フォローアップ研修/久里浜発達障害教育情報センター開所式参加
- 8月28、30日 IBMヒアリング(8人)
- 9月8日~10月31日 第7回学習支援員養成講座
- 9月10日 NHK厚生事業団贈呈式
- 9月14~15日 明石市集中講座(140人)
- 9月20日 中小企業同友会
- 9月23日 DAISYワークショップ(20人)
- 10月9日 群馬県立玉村高校教員研修講師(25人)
- 10月12日 NHKスペシャル「病の起源・読字障害」

今後の予定

詳細はP5を参照ください。

- P5以外
- 11月25日 23区職員研修講師
- 11月26日 NPO事業サポートセンター講師



ホームページ
リニューアル

新装!
より親しみやすく、
コンテンツが
豊かになりました!

- インターネットラジオ(DXステーション)
→ 2008年7月1日から
http://blog.livedoor.jp/npo_edge/archives/cat_50033715.html
- NPO EDGEのホームページ
→ 2008年11月初旬から
<http://www.npo-edge.jp>

Report from the EDGE - 第18号 -

2008年10月25日発行

発行者 NPO法人EDGE

発行責任者 藤堂栄子

東京都港区浜松町1-20-2 村瀬ビル3F

Tel. 03-6240-0670・0672

Fax.03-6240-0671

編集 NPO法人EDGE事務局 柴田章弘

印刷 株式会社 信英堂

<http://www.npo-edge.jp>

http://blog.livedoor.jp/npo_edge/

E-mail: info@npo-edge.jp